

令和4年度 学校評価 春日部小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	<p>心豊かにつながり、夢と勇気を持って挑戦する春日部っ子 ～みつめ、みいだし、みらいを創る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ感動、集う楽しさ、働く喜びのある学校 ・保護者・地域社会の期待に応え信頼される学校 ・地域の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動を大切にする学校
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ・「自己有用感」「自尊感情」の育成による安心して学べる環境づくり ・児童・保護者・地域の願いや期待に応える地域とともにある学校づくり ・はるべの郷の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動の推進

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染拡大防止のための適切な対応と指導 ○いじめの未然防止、早期発見、早期対応や不登校ゼロを目指した取組 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察カードを活用し、検温を中心に家庭における児童の健康観察の徹底を図る。 ・マスクの着用や手洗い、教室に入る前の手指消毒、換気など教職員で3密にならない環境を整えるとともに児童への指導を行う。 ・給食の前には、手洗い・手指消毒をし、食べるときには席を離し、前を向いて黙って食べるよう指導を行う。・児童の人権・命を守るために、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導を徹底したり、PTAと共にSNSなどを含む情報モラル教育の充実を図ったりする。 ・毎職員会議において気になる児童の様子を職員間で交流しながら共通理解を図り、指導方法を統一して全職員で組織的に関わる。また、教育支援センターやレインボー教室等の専門機関と連携を図る。
	保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会「コミュニティ・スクール春日部 かすかべっ子はぐくみたい」の運用による地域とともにある学校づくりの推進(ふるさと学を含む) ○あいさつ運動や基本的生活習慣の確立 ○家庭学習習慣や家庭教育の充実を図る取組 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間などの学習で、ゲストティーチャーとして地域の方を招くなど、春日部の「人」「自然」「もの」について学ぶことで、ふるさとへの愛着が深められるようにする。また、ふるさと学以外の各種サポートボランティアも合わせて募集し、支援体制の強化を図る。 ・地区懇談会などでは保護者や地域の方が関心のあるテーマを設定することで参加しやすいように努める。 ・あいさつ運動については、学校・家庭・地域と協力しながら広めていく必要があることから、児童会を中心に方法を工夫したり、期間を決めて取り組んだりする。 ・認定子ども園との交流や中学校との交流を行い、連続した学びを目指す。 ・各家庭で学習や家庭読書の習慣が定着するよう工夫をしながら「ぐんぐんカード」に取り組む。
教育課程	指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の読み取りを活かし、自らの思いや考えが表現できる児童の育成に向けた国語科を中心とした授業改善 ○主体的・対話的に学ぶための工夫（単元 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・考えのずれが生まれるような授業展開や課題を設定し、個々の考え方や根拠の違いを話題に対話ができるようにする。 ・語彙の習得に向けて、各学年で身に付けたい語句の一覧を教室に掲示したり、分からない言葉の意味調べをしたりする。 ・思考スキルとして、「比較、理由づけ、関係づけ」などを国語科の授業の中で活用し、筋道の立った説明ができるようにする。 ・子ども向けの新聞を子どもたちの目がふれる場所に掲示することや、読書活動の推進を行う。

		を貫く言語活動の設定、思考スキル)による深い学びの実現 ○専門性を生かした、高学年での教科担任制の実施		<ul style="list-style-type: none"> 主に高学年において、理科、図工、体育、外国語等での教科担任制を実施し、学びが深まったか、楽しく学べたかなどを確認する。 兵庫型システム推進委員会を開催し、効果的な学習ができているかを確認する。
課題教育	特別支援教育	○特別な支援を要する児童に対する共通理解・適切な教育支援・啓発の推進 ○認定こども園・春日中学校・こども発達支援センター等の専門機関等との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターが普段から授業参観したり、担任と情報交換したりするなど、児童の状況を把握する。 月ごとに、特に支援を要する児童を焦点化し、個に応じた支援の方法を検討し、全職員で共有し、実行する。 特別支援教育についての文書を配布し、家庭への啓発を行う。 引継ぎ日の設定や巡回相談への参加による校種間のスムーズな連携を図る。 保護者の希望に合わせた専門機関の紹介ができる体制を整える。
	人権教育	○互いの違いやよさを認め合う温かい人間関係や信頼関係を育む学校・学級づくり ○「特別の教科道徳」をはじめ、全教育課程を通じた、規範意識や人権尊重の意識の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> 終わりの会で「いい所見つけ」や「ほめほめシャワー」等に取り組み、お互いの良さを認め合う場面を設けた。 なかよし班での遊びやそうじなど異学年交流の場では、一人ひとりの得意が生きるよう活動の仕方を工夫する。 教職員の人権感覚を高めるため、職員研修の機会を設ける。 ジェンダー平等教育を含めた人権教育を推進する。 6年生の総合的な学習の時間で触松人権歴史館の見学等の人権学習に取り組み、6年間の人権教育のまとめとして人権発表会を位置づけ、それに向けて各学年の発達段階に応じた人権感覚を培っていく。

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対策においては、地域の状況に機敏に対応され、学校・学級閉鎖にならずに感染拡大を防いでいる。また、感染対策をしっかりして頂いた上での様々な行事が行えたことは嬉しく思う。 いじめの未然防止と不登校児童ゼロを目指した取組を評価したい。しかし、潜在的ないじめや不登校は子ども側から信号を送れずにいる可能性があるため、子どもの様子をしっかりと観察して頂きたい。 しっかりあいさつができる子が多い印象であるが、少し声が小さいと感じる子もいる。学校や家庭では出来ても、地域の方には出来ていない子もいる。まずは地域住民から積極的なあいさつを大事にし、あいさつの輪を広げていきたい。 地域に児童が出かけていくことやゲストティーチャーが学校に出向いて授業を行うことはとても有意義な取組であり、これらの取組がこの春日部を背負ってくれる人材育成になることを願う。 家庭での読書の習慣が低下していることは憂慮すべきであると考え。本に触れる時間を少しでも親子で共有できれば良いかと考える。 児童の学習への意欲は、授業中の姿を通してよく伝わってくる。話し手の方をしっかりと向いて聞いている姿はとても好印象を覚える。語彙力をつける事、言葉を知る事は社会に出て本当に役に立つ事が多い。読書や年長者との関わりを大切にしながら、その力を伸ばしてほしい。授業改善については更に工夫をする必要があると考える。 学校と専門機関との連携が図れており、支援を必要とする一人ひとりの子どもに適切な対応がなされていると思う。今後も継続し更に一人ひとりの思いや願いを受け止められる組織であってほしい。 ジェンダー平等教育を含め様々な人間らしく生きるための権利を学ぶことで、互いの良さを認め合い尊重できる子どもになって欲しい。

4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を確実に定着させ、自ら課題を見つけ、自分の思いや考えが表現できる児童を育てる。 相手を思いやり、自分も相手も同時に大切にできるように行動する力を育てる。 一人ひとりの児童をしっかり見つめ、それぞれが力を発揮できるよう支援をおこなう。 学校・保護者・地域の連携を基盤に、安全・安心で、さらに楽しい学校づくりに取り組む。 <p style="text-align: right;">令和5年 3月 10日 学校名 丹波市立春日部小学校 校長名 大木 修</p>
--